

であり、E/F比は500~1,200となった。

以上、動物実験と食事調査により得られた結果について報告する。

### 3. 自動水洗ラックを用いた小動物の大量飼育について

佐藤 芳範 (榊原生物化学研究所)

我々は、いわゆるハムスター法によるヒト細胞の大量増殖技術を確立し、種々の生理活性物質の生産を行っている。IFN- $\alpha$ については、臨床試験が終り、昨年9月には製造承認申請を済ませ、目下、吉備高原テクノポリスに製薬工場を建設中である。

工場建設に当り検討してきた工程の省力化、省エネ化、自動化のうち、ハムスターの飼育関係に限って報告する。

検討の対象は、飼育室構造を含む空調方式についてである。即ち、水洗ラック、自動給餌機、空調制御方式と、それらの組合せの検討であった。

試験的に導入したベルト式水洗ラックで検討を始め、床敷飼育方式との比較で認められた欠点について改善を試み、水洗ラック方式での大量飼育の可能性を模索した。その中からいくつかについて紹介する。

#### 1. ケージ形状の改良

居住性を考え、又ハムスターの習性から四隅のみ穴があり糞尿処理機能を持つ、ケージの出入れせず給餌の出来る外箱方式である。ケージ内に仕切り板を入れる事により巣づくりを容易にした。

#### 2. ラック形状の改良

単位容積当りのケージ収容数を増した。使用水量の少ない構造とした。背面排気方式により作業環境を改善し、風量の削減を計った。自動給餌機が設置可能な形状とした。

3. 空調制御方式についても検討し、地下飼育室の導入と併せて、空調動力の省力化について検討した。これらの検討結果は来春稼働予定である吉備製薬工場の施設に取り入れられている。

## 第13回岡山実験動物研究会報告

昭和62年3月30日(日)午後2時から、岡山大学医学部臨床講堂において永井 廣先生(歯学部)

のお世話で開催された。本会は発生工学懇談会と岡山バイオ懇談会との共催で行なわれた。

この会では、京都賞(先端技術部門)を受賞されたフランスのニコル・M・ルドワラン教授(フランス科学振興機構発生学研究所所長)をお招きして、岡山フォーラム「生物のかたちづくりの謎をとく」—発生工学への道—が催された。

ルドワラン教授の講演に先だって、竹市雅俊教授(京都大・理)から、「細胞をよりわかる分子と動物のかたち作り」の賛助講演が英語でなされた。その講演は動物のかたちを構成する細胞の機能、しくみに関する大変興味深い内容であった。

10分間の休憩後、医学部長小田啄三先生の御挨拶があった。その後直ちに、ルドワラン教授の講演に移った。ニワトリとウズラ間のキメラ動物の作出という新しい技術を用いて、高等動物の発生のメカニズム特に神経系と免疫系の発生機構を解明した内容について詳細に話され、胚の発生機構に興味を持つ聴衆者に大変深い感銘を与えた。

## 昭和61年度役員会報告

昭和61年度内には、下記の2回の役員会が持たれた。

### 第1回役員会

昭和61年9月13日(土)13:00~13:50まで、重井医学研究所3階図書室において開催された。

議題ならびに討議内容は下記の通りである。

①昭和60年度会計報告について……昭和60年度(4月20日~12月28日)の会計報告の監査を中江利孝、高橋正侑両監事をお願いしたところ、昭和61年5月8日に御承認を得た。

②研究会々員ならびに賛助会員の動向について…昭和61年6月末日現在で97名の会員となり、同年9月13日現在で岡山県立短大生物学研究室の伊藤国彦先生、琉球大学医学部附属動物実験施設の小杉忠誠先生の2名が会員になられたので、会員は99名となった。

岡山県内会員は38名(38.4%)、県外会員は61名(61.6%)となり、県内会員は県外会員を下まわ

ることから、今後県内会員を増やして約50%程度にしたい。賛助会員は61年度には、21社となり徐々に増加しつつあり、研究会を支えて戴いている。

③研究会費未納者について……昭和61年7月現在で会費未納者は8名おられたが、その後2名から納入されたので6名となった。未納者には全員御連絡できたので、近日中に振込まれる予定である。今後の納入状況を見て、未納が長く続く会員が万一おられたら、役員会で討議して戴くことにする。

④第5号岡山実験動物研究会報告発行について……特別講演を2題会員から募集する。昭和61年12月末日までに応募願いたい。施設めぐりは今まで紹介しなかった所を紹介したい。例えば賛助会員のところを1施設ごと紹介し、全部紹介し終れば外部のどこかを紹介するようになったらどうか。また、全国の学会予告も掲載したらどうか等の意見が出た。

⑤第12回岡山実験動物研究会開催予定場所について……次回の第12回研究会は、昭和61年12月6日(土)に開催するが、その開催場所は(株)林原生物化学研究所に願いたい。

⑥本研究会開催地に対する援助金について……会員に対する開催通知、茶菓子代等の一部として、研究会の開催1回につき2万円を援助する。

⑦その他……昭和62年5月21～23日に岡山で第34回日本実験動物学会(猪 貴義会長)が開催される予定であり、お手伝い願うこともあるかも知れないので、よろしく願いたい旨、猪 貴義会長からお願いがあった。

## 第2回役員会

昭和61年12月6日(土)13:00～13:50まで、(株)林原生物化学研究所藤崎研究所1階会議室において開催された。

議題は5題あり、次のような討議が行われた。

①役員の改選について……別項にて永井 廣常任理事より詳述して頂いたので、御参照下さい。

②事務局の移転について……本研究会の事務局は発足時の昭和57年12月から昭和59年12月までの2年間は岡山大学歯学部口腔解剖学第1講座(永井 廣常務理事)が担当した。昭和60年1月に、

事務局を岡山大学医学部附属動物実験施設に移し、倉林 譲常務理事が事務を担当してきたが、事務局は持回り制が良いのではないかという意見もあり、昭和62年1月から事務局を岡山大学農学部家畜育種学教室に移した。

③第5号岡山実験動物研究会報の発行について……特別寄稿については重井医学研究所所長の妹尾左知丸先生ならびに京都大学医学部の山田淳三教授にお願いする予定である。寄稿については会員の方々から広く募集したり、また投稿して戴くようお願いする。「施設めぐり」についてはBreeder等の賛助会員にお願いする。

④次期(第13回)研究会の開催場所について……岡山大学歯学部の永井 廣先生が世話人となる。期日は昭和62年3月頃の予定である。

⑤本研究会の英文名について……重井医学研究所の沖垣 達先生の御提案で、本研究会の英文名は「Okayama Society for Laboratory Animal Science」とすることが決定された。

## 役員の改選について

### 1. 改選理由

- 1) 会則第7条により役員任期が満了した。理事の中には定年を迎えられあるいは辞意をもらされている方もいる。
- 2) 講演会の開催が理事の間ではほぼ2巡したので、新理事のもとで新しい企画を行い会の活性を求めたい。
- 3) 理事の方たちは極めて社会的に多忙でお気の毒な面もあるので、若い常務理事をもって執行機関としたい。

### 2. 現行役員

- |         |     |
|---------|-----|
| 1) 会長   | 1名  |
| 2) 常務理事 | 2名  |
| 3) 理事   | 10名 |
| 4) 評議員  | 0名  |
| 5) 監事   | 2名  |

### 3. 会則改正

- 1) 第6条第1項から会長および常務理事は理事

の員数に入れられてあり、これを加えると現行理事13名はすでに会則に反している。

- 2) 会則はみだりに改正すべきでないので、最小限度の改正にとどめる。

旧 理事10名以内  
新 理事20名以内

#### 4. 新 役 員

- 1) 現行理事13名のうち、鳥海 徹理事（岡山大名誉教授）、小野謙二理事（教育学部）は定年を迎えられ、また小林靖夫理事（理学部）、山根仁文理事（教養部）は辞意をもらされているので、評議員になっていただき、今後の会の発展に適切な助言をお願いしたい。

- 2) 新たに次のかたがたに常務理事として会の発展に関する実務をお願いしたい。

丹羽皓二教授（岡山大・農）

佐藤勝紀助教授（岡山大・薬）

亀井干晃助教授（岡山大・薬）

山本敏男助教授（岡山大・歯）

片山泰人講師（岡山大・医）

佐藤芳範次長（林原研）

内藤一郎研究員（重井研）

一順不同一

- 3) 会長には引きつづき猪 貴義理事をお願いしたい。

- 4) 理事にはつぎのかたがたをお願いしたい。

矢部芳郎教授（岡山大・医）（再任）

田坂賢二教授（岡山大・薬）（"）

三谷恵一教授（岡山大・文）（"）

倉林 譲助教授（岡山大・医）（"）

山下貢司教授（川崎医大）（"）

栗本雅司所長（林原研）（"）

沖垣 達副所長（重井研）（"）

石井 猛教授（岡山理大）（新任）

永井 廣教授（岡山大・歯）（再任）

一順不同一

- 5) 従来欠員であった評議員には、前記の鳥海、小野、小林、山根各教授のほか伊藤国彦助教授（岡山県立短大）、三枝誠行講師（岡山大・教養）のお二方をお願いしたい。

- 6) 監事には引きつづき中江利孝教授（岡山大・

農）、高橋正侑教授（ノートルダム清心女子大）をお願いしたい。

以上、会長1名、常務理事7名、理事9名、評議員6名をもって新役員とすることをお願いしたい。

（文責 永井 廣）

#### 岡山実験動物研究会の活動経過

佐藤 勝紀 （岡山大学・農学部）

岡山実験動物研究会が発足して、早いもので5年目を迎えようとしています。この間、会員ならびに会員外の方々から、多大のご理解とご支援を頂き、本研究会の活動が着実に進められてきています。本研究会はこれまで13回開催されておりますが、ここで、これまでの経過を振り返ってみます。

**第1回岡山実験動物研究会**：昭和57年12月7日、岡山市郵便貯金会館で開催。設立総会。特別講演「実験動物における発生のひずみの技法別研究法」—永井 廣教授（岡山大・歯学部）、「岡山実験動物研究会の今後のあり方」についての討論。

**第2回岡山実験動物研究会**：昭和58年4月30日、岡山大学農学部で開催。研究会会則についての審議、承認。特別講演「哺乳動物による変異原性試験」—土川 清先生（国立遺伝学研究所、静岡実験動物研究会会長）、「実験動物研究における最近の話題」—猪 貴義教授（岡山大・農学部）

**第3回岡山実験動物研究会**：昭和58年9月30日、重井医学研究所で開催。映画上映「染色体上に書かれたネズミの歴史」—吉田俊秀先生（国立遺伝学研究所、細胞遺伝部長）編集。特別講演「哺乳類発生学の基礎と応用」—館 鄰先生（東大・理学部）

**第4回岡山実験動物研究会**：昭和58年12月3日、林原生物化学研究所、藤崎研究所で開催。特別講演「林原生物化学研究所の概要」—栗本雅司先生（林原・藤崎研究所所長）、「実験動物の開発—特にその遺伝学的手法について」—永井次郎先生（カナダ農商務省研究所、部長）

**第5回岡山実験動物研究会**：昭和59年5月19日、岡山大学歯学部で開催。特別講演「先天異常に関